

横浜の都市デザイン活動の理念と新たな目標の必要性

1. 都市デザイン活動は今後も持続して推進すべきである

1-1. 都市デザイン活動の意義と役割を振り返る

理念 魅力と個性のある人間的な都市空間の創造

意義 都市デザイン活動は、魅力と個性ある都市空間を創り出し、その空間は都市の価値を高めるとともに、そこで出会い、ふれ合う人々のまちへの愛着や誇り(シビックプライド)を育む意義がある。

これまでの役割

急成長時代に「擁護すべき価値」を「都市デザイン活動7つの目標」として提示し実践

横浜を各都市からも評価される都市へと発展

- ※（これまでの）都市デザイン活動7つの目標
- ①歩行者活動を擁護し、安全で快適な歩行空間を確保する。
 - ②地域の地形や植生などの自然的特徴を大切にす。
 - ③地域の歴史的、文化的資産を大切にす。
 - ④オープンスペースや緑を豊かにする。
 - ⑤海、川などの水辺空間を大切にす。
 - ⑥人々がふれあえる場、コミュニケーションの場を増やす。
 - ⑦形態的、視覚的美しさを求める。

今後も継続しつつ



新たな目標の必要性

1-2. 都市デザイン活動の目標を今改めて描く

以下の観点から、これまでの7つの目標を、これからの時代にふさわしい、「都市デザインの使命」として描きなおす必要がある。

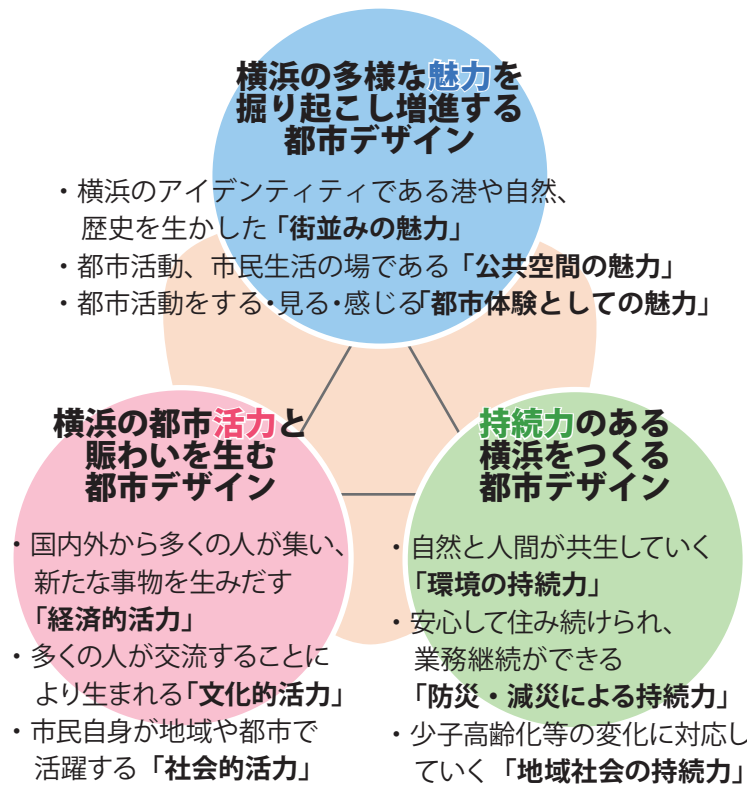
関係性のデザイン	持続性のデザイン
都市デザインの本来のあり方の更なる追究	
様々な事物の相互の関係性、多様な主体の関係性などをとらえ、街全体を総合的にデザインすること	様々な状況に対応した活動が常に生み出されていくような循環を創り出すこと
これからの時代への対応	
真の市民社会を目指す 市民社会の成熟 vs 個人の孤立	地球規模で物事を考え、地域社会を改善していく不断のイノベーション 情報技術の革新、環境問題等地球規模の問題 等

今後の都市デザイン活動の戦略

2. 都市デザイン活動は横浜や社会の大きな変化に対応していかなければならない

- ①市民参画・市民協働
市民社会が成熟していく中でより一層の市民参画・市民協働のまちづくりが求められる
- ②人口減少時代の住環境マネジメント
少子高齢化による人口構造・家族構成の変化に応じた地域の住環境マネジメントが求められる
- ③産業構造の変化に応じた都市再編
就業者の減少、グローバル化等、産業構造・就業構造の変化に応じて都市構造再編が求められる
- ④公共施設のマネジメント
都市基盤や公共建築の老朽化に伴う長寿化、更新に対応した公共施設の整備・維持管理が求められる
- ⑤災害への対応力
都市基盤・都市活動の災害からの回復力や防災・減災性能の確保が求められる
- ⑥地球の自然システムとの調和
地球環境への危機感の高まりに応える都市づくりが求められる
- ⑦港町横浜の独自性強化
国際観光都市としても評価される横浜の魅力を一層強化することが求められる

3. 横浜の発展に寄与する都市デザインの視点



4. 都市デザイン活動の今後の展開

- ①国際的にも評価される活力と魅力ある新たな都心臨海部を創る
 - 港を中心とした活力あるリング状の都心像を描き実現していく。
 - 様々な創造活動、モノづくり活動や社会実験による賑わいと活気ある都市を創造し、発信する。
- ②地域固有の資源を活かし、多様な魅力を持つ景観を創出する
 - 地域の個性・賑わいづくり、デザインの質的向上の観点から、都心臨海部の景観形成の取組みを更に進める。
 - 都心周辺部や郊外部の団地再生や農・緑などの資源を活かした景観形成を地域住民とともに進める。
 - 公共施設等の再整備の機会を捉えた景観の向上を図る。
- ③「歴史を生かしたまちづくり」の領域を拡げる
 - 所有者の実情に応じた多様な保全活用手段の拡大や市民協働による歴史的建造物の活用を核としたまちづくりを進める。
 - 戦後建築等新たな歴史的資源について調査検討を行い、リノベーション等による再生型まちづくりを含めた保全活用の取組みを進める。
- ④都市の創造力を高めるまちづくりを推進する
 - 創造性を活かす街づくりによる新たな賑わいや経済・産業の活性化を図る。
 - 地域との協働のまちづくりによる公共空間の利活用を進める。
- ⑤コミュニティや人々の活動を支える居住地の空間や環境を整える
 - 人口構造の変化に対応し、災害時への対応力を持つ、自立したエリアマネジメントの環境をつくる。
 - 多様なライフスタイルから生まれるテーマ型コミュニティの力をまちづくりに活かす。
 - 地域内を安全・快適に移動できる空間を創り、地域内の交流を促す。
- ⑥環境に配慮し自然と共生する都市空間を再生する
 - グリーンエネルギーの導入をはじめとした環境に配慮した循環型社会の整備を進める。
 - 水と緑のネットワークと共生する都市空間形成を推進する。
- ⑦多様な交通手段のネットワーク化による安全快適な移動・乗換空間を創る
 - 風やにおいを感じ、都市の体験を豊かにするスローで人や環境にやさしい移動手段のための環境やシェアする仕組みを充実させる。
 - すべての人が安全・快適に移動できるような回遊性の向上と移動方法の多様化を進め、交通結節点を中心に防災・減災への配慮を含めた移動空間の再編を推進する。
- ⑧都市デザイン活動の間口と奥行きを拡げ、市民と協働する開かれた活動を進める
 - 様々な分野の専門家や大学、市民、企業、各都市などとの連携を推進する。
 - 多様な分野の人々と連携を推進するため、行政内部の体制及び職員の専門性を強化する。
 - まちづくりに対する理解を深めてもらうための情報発信や学校教育を含めた次世代の人材育成を推進する。